

あだたら

発行所
三本松市鉄扇町
あだたら山の会
編集

●編集部連絡先
三本松市鉄扇町1-5-5
0243(22)4245
渡辺 正

明けましておめでとうございます

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと思います。令和の年の始めにあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は異常気象による高温、台風による集中豪雨など当会員の中にも被災された方もおられました。御見舞申し上げます。

その中において、新体制での活動は、役員の皆様の御苦労と、会員相互の団結と協力により、計画を遂行することができました。お礼申し上げます。今年も安全登山に努め、無事故での山行を願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

二〇二〇(令和二)年元日

あだたら山の会会長 □□□□

私ごとであります。十一月の中頃から、体調を崩し病院での検査等、対策をしてきたのですが、未だに回復せず、少しの間、山の会の活動を休ませて頂き、しっかり治療して、今後の活動を遂行していきたいと思っております。役員をはじめ会員の皆様に変々迷惑をおかけし、身勝手なことではありますが、ご理解を戴きたく、お願いいたします。

十二月十五日(日)

十二月山行、白猪森・木幡山

報告 □□□□



9時35分、白猪森山頂 714m

師走十五日、今年の干支「いのしし」にあなむ「白猪森」へ。八時三十分東和町支所で合流し、数分後登り口到着。先の台風で、舗装道路の路肩、中央部分が大きく抉られており、注意して歩く。杉林を抜けると急登三十分。これはきつい。

九時三十分広場着。カラマツ林に囲まれ眺望はない。「白い猪」との出会いはない。早々に下り、十時十五

分木幡山へ移動。

木幡山登山口着十一時。駐車場にはコンクリート製のボルダリング壁がある。

神社前の道を緩やかに歩く。と「胎内岩」への標示坂が見えてくる。いきなり急な山道に入る。「もうすぐだよ」のWさんの声に励まされ狭い道を登る。十二時、巨石前到着。幡祭り行事の一つ「胎内潜り」がここで行われるという。この先に



12時28分、木幡山山頂 666.1m

羽山神社があり、祭りで使われた「ぼんでん」が納められている。と。ここまでの話は総てWさんの説明によるもの。経塚を経て、十三時時津島神社。樹齢七百年という大スギを見上げる。木幡山は堂社巡りの神域。十三時五十分麓へ戻る。さて、ここからが本日のとっておき、「だんご汁」の支度にかかる。丁子さんが昨晩から準備してくれた

鍋には、既に具材が入り、Nさん持参のコンロにかけられている。Sさんが粉を握ね「だんご」を鍋に落としていく様子は手慣れたもの。残る四人は震えながら待つ。気温二度の寒気の中、誰もいない児童公園の「あづまや」で、熱々の「だんご汁」は最高でした。後片付けして、十五時四十五分散。

十一月三十日(日)

十一月山行、矢祭町
滝・紅葉・蕎麦の滝川溪谷

報告 □□ □□□



朝焼けの色。八丁目を過ぎ、最後の滝を眺めると、道はゆるやかな流れに寄り添うようになる。「滝川の里」はもうすぐ。

十時四十分着。十割そばの店だ。先の台風では、店内も浸水したという。店の前庭には桜が咲いていた！小さな小さな、ほんのり薄も色の花びら。おそばを堪能し、十一時二十分下山開始。Sさんのザックには、店内で買った里芋が入っている。十二時四十分着。駐車場のテントでは田楽などを売っていた。

十三時出発。道の駅「は

なわ」立ち寄り、十五時二十五分二本松着。▼追記 途中、水場があります。おいしい「美泉水」です。



矢祭町のイメージキャラクター、「やまっぴー」

十二月五日(木)

十二月例会・忘年会

報告 編集部



盛り上がった忘年会

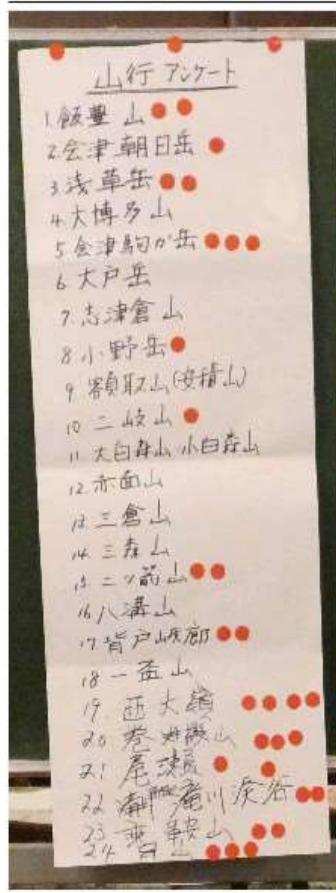
十二月五日(木) 十二月例会を早々に切り上げ、今年の忘年会を開催しました。席上 集まりの悪いハガキでのアンケートとは別に、今年登りたい山の希望を取りました。ハガキでの希望と一緒に、来年度の山行計画が立てられることになりました。十六名が参加しました。



【参加者】□□□□□、□□□□□、□□□□□、□□□□□(五名)

【行動】出発の朝は初雪。六時二本松インターに入る。走行中徐々に夜が明けてくる。須賀川インターで降り、途中コンビニで朝食。八時二十五分、滝川第一駐車場到着。トイレも清潔に保たれていて好感が持て

る。一人二百円の環境整備料は、現在徴収していない。八時四十分スタート。溪流に沿って遊歩道を歩く。一丁目から八丁目まで標識があり、各々、名前の付いた滝の「ヴェニススポット」となっている。木々はすっかり葉を落として、大きな朴葉が、ガサガサと音を立てる。散り残ったカエデは



十二月二十五日(水)

安達太良山で救助要請

報告 事務局



8時35分、要救助者を吊り上げ救助

十二月二十五日(水)午前五時二十一分、事務局の携帯電話に、安達太良山岳遭難対策委員会から救助隊の道案内依頼があった。午前四時に勢至平分岐付近で動けないでいる登山者を、通りかかったいわき市の登山者が発見、救助要請したもの。積雪期で夏道と様子が違っていても、発見・合流できないこともあるので、冬季登山道になった当会に救助隊「道案内」の要請だった。□□□さんと事務局

《以下は□□□の私的記録》
突然携帯電話が鳴った。朝の五時二十一分だ。既に起床して、毎朝の仕事、昨日の新聞のスクラップしていた。電話番号は表示されているが、名前ではない、初めての相手先だ。出てみると二本松市生活環境課、安達太良山での山岳遭難救助依頼だった。



救助現場で □□□さん

勢至平分岐付近で午前四時過ぎに発見、千葉県六十代の男性。低体温症らしい。午前六時に奥岳登山口に来て、消防の救助隊の道案内をして欲しいと言うことだった。あと三十分程しかない、市内からは三十分程掛かるので、おそろしく間に合わない、そのこと話したらそれは構わない、出来るだけ早く、と言うことだった。早速□□□会長へ電話、すぐ出てくれた。□□□さん、□□□さんに連絡することとした。□□□さんはす

た。セブンイレブン郭内店で二人分の食料を整える、店長がいたので、出勤なんだ、という話をする。奥岳に向かう。結局六時五十分頃到着。消防隊と□□□さんは既に出発していた。ヘリは手配済みで、八時に離陸の予定だという。防災無線預けられて、警察官四人と出発。鳥川橋で休憩。近道を二本登って休憩。三本目を登ってからは馬車道。見晴らしの良い場所での休憩、このあたりで、□□□さんと消防隊が「要救助者と合流」の連絡有り。八時十一分、「八の字」で休憩。馬車道は積雪三十〜四十センチ程、ラッセル状態。ただ積雪少なく夏道そのまま歩ける状態、例年なら十二月下旬のこの頃は、一面積雪で埋まって大斜面になっているが、夏道状態。邪魔石過ぎたあたりで、ヘリの爆音聞こえた。茨城県の防災ヘリだという。福島県より派手な塗装だ。実は警察メンバーの一人が遅れだしていった。置いて行くわけに行かないので、若手の三人先行させた。道ははっきりしている。勢至分岐が見える所で、ヘリでの担架の吊り上げ確認、八時三十五分。勢至分岐で先行者と合流、ヘリの直下には行けない。先く日射しがあり温かくて、まるで春山。雪も少なくて



発見現場、左湯桶道・右登山道



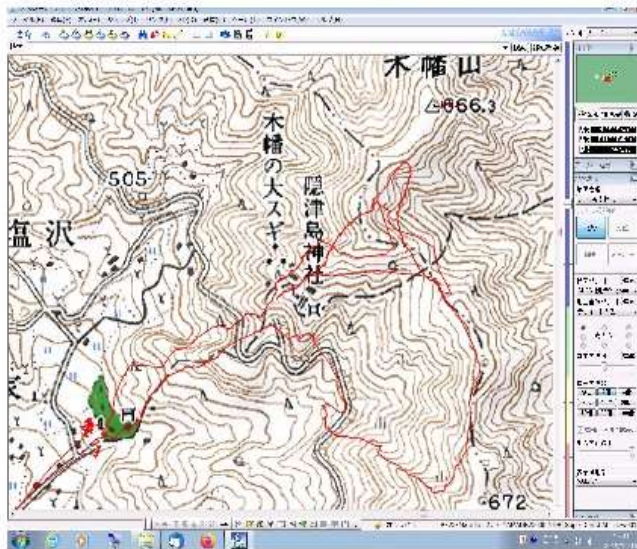
八の字、夏道のまま

かりもまるで春。ストック二本使っているの、滑らない安定して歩けるしまさに天国。山頂も実に綺麗に見えた。十時半頃には奥岳到着。ガイドで来て居たらしい岳のガイド□□□さんにも出会った。ほんとに彼にも出動して欲しかった。ランデブーの本部既に解散、そこで岳温泉の様子確認したら、以前はあった救助の体勢無くなってしまったらしかた(臨戦態勢は当会だけ)。スキー学校に顔出していた□□□さんとも合流、出勤費用の打合せなどして解散。奥岳までの道路、駐車場出たら、乾いていて、岳温泉まで雪はなかった。

木幡山、二本松市街から撮影した写真に、十五日に歩いたコースを書き込んでみました。



十二月十五日、
白猪森、木幡山写真集



木幡山の 歩いた軌跡



白猪森の 歩いた軌跡



美味しく 戴きました



8時53分、白猪森登山口



気温2度、15時45分、解散前の撮影



福島国体練習用の木幡山人工壁